

京都大学言語学研究

第 38 号

研究論文

- Inclusory constructions in Seediq: Reconstruction Izumi OCHIAI 1
- Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw..... Keita KURABE 29
- 滋賀県湖北方言の *-tar-* の性質と機能
—有生性の共起制限とアスペクト—..... 脇坂美和子 49

書評

- 邵明園（著）《河西走廊瀕危藏語東納話研究》
廣州：中山大學出版社、2018 年、10+450pp. 鈴木博之 65

2019

京都大学
大学院文学研究科
言語学研究室

Vol. XXXVIII
2019

KYOTO
UNIVERSITY
LINGUISTIC
RESEARCH

published by

DEPARTMENT of LINGUISTICS, GRADUATE SCHOOL of LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto University Linguistic Research Vol. 38

31.12.2019

Edited by	Haruna OTANI Yayun CHENG Takenori MURAKAMI	(Editor-in-chief) Aoi GEKA Tero VATTUKUMPU	Dulini JAYASURIYA Sho YAMAOKA	Hiroto KOBAYASHI (Assistant Editors)
Published by	Adam CATT Shuichiro NAKAO Takeshi YAMAMOTO	Norihiko HAYASHI Teigō ŌNISHI Yutaka YOSHIDA	Sō MIYAGAWA Toshiyuki SADANOBU (Editorial Board)	Teruyuki MIZUNO Syuntarō TIDA
	Department of Linguistics Graduate School of Letters, Kyoto University Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501 Japan TEL: +81-75-753-2827 https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/			
Printed by	Nakanishi Printing Co. Ltd. 146 Nishioji-cho, Shimodachiuridori Ogawahigashiiru, Kamigyo-ku, Kyoto 602-8048 Japan			

『京都大学言語学研究』第 38 号

目次

研究論文

Inclusory constructions in Seediq: Reconstruction Izumi OCHIAI 1

Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw

Keita KURABE 29

滋賀県湖北方言の *-tar-* の性質と機能
—有生性の共起制限とアスペクト—

脇坂 美和子 49

書評

邵明園（著）《河西走廊瀕危藏語東納話研究》廣州：中山大學出版社、
2018 年、10+450pp.

鈴木 博之 65

京都大学言語学懇話会 2019 年度発表要旨 76

『京都大学言語学研究』第 39 号原稿募集 83

執筆者紹介・編集後記 85

『京都大学言語学研究』第 39 号原稿募集

投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) にて公開される。
- 同一筆頭著者は、下記 A, B の種別のうちそれぞれ最大 1 つ投稿できる。ただし、A, B の種別の両方に投稿することができない。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。
- 採否は編集委員会で決定し、2 か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

投稿方法

- 投稿は電子メールにて受け取る。
- フォントの埋め込み処理をした PDF 形式のファイルを電子メールで提出。
- 下記の原稿データを原稿（既定の様式に沿ったもの）とは別のファイルに記載し、電子メールに添付して提出すること：
 1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別
 5. ページ数（要旨は含めない） 6. キーワード 7. 所属機関
 8. 連絡先（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）

執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。
母語以外の言語を使用する場合は、しかるべきネイティブスピーカーにあらかじめ見てもらい、執筆者は本文の可読性について責任をもつこと。
- 種別 A 研究論文 — 完成した研究論文
研究ノート — 研究の初期段階をまとめたもの
書評論文 — 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
言語資料 — 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
B 書評 — 他者の出版物を紹介・批評したもの
- 原稿の様式
 - サイズ A4 版用紙
 - 枚数 論文 30 枚、研究ノート・書評論文 20 枚、書評 10 枚、言語資料 30 枚迄とする。
 - 書式 『京都大学言語学研究』のホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>) 上に掲載されたスタイルファイル、或いは Word テンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。
 - 図表 モノクロのみとする。
 - 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本

語で書かれた、A4 版用紙 1 頁以内の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・
キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第 1 著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数＋頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii+179pp.

Yoshida, Kazuhiko *The Hittite Mediopassive Endings in -ri*. [Studies in Indo-European Language and Culture. vol.5], Berlin:

Walter de Gruyter, 1990: xi+218pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を 2 通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数.

【論集などに所収の論文】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数. 出版社：出版地.

【単行本】

第 1 著者名・他の著者名（発行年）『書名』版、シリーズのタイトルと巻号. 出版社：出版地.

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類、大学名.

田窪行則 (2005) 「中国語の否定：否定のスコープと焦点」『中国語学』 252：61-71.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’ In Stephanie Jamison, H.

Craig Melchert, and Brent Vine (eds.) *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen:

Hempen. 39-48.

曾布川寛・吉田豊編 (2011) 『ソグド人の美術と言語』臨川書店：京都.

田窪行則・前川喜久雄・窪園晴夫・本多清志・白井克彦・中川聖一 (2001) 『音声』2 版, 岩波書店：東京.

定延利之 (1998) 「言語表現に現れるスキヤニングの研究」博士論文, 京都大学.

Tida, Syuntarô (2006) *A Grammar of the Dom Language*. Doctoral dissertation, Kyoto University.

編集委員会連絡先

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX：(075)753-2827 電子メール：kulr.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。

執筆者紹介

Izumi OCHIAI

神戸市外国語大学

Keita KURABE

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

脇坂 美和子

神戸山手大学非常勤講師

鈴木 博之

Universitetet i Oslo／国立民族学博物館

編集後記

『京都大学言語学研究』38号は多くのご投稿をいただき、さまざまな言語現象を扱った盛りだくさんの内容となりました。発行に際しましてご尽力をいただいた皆様に篤くお礼申し上げます。運営にあたる博士後期課程の学生の減少など厳しい情勢は続いておりますが、今後も学生主体の媒体として発信を続けて参ります。どうか今後とも『京都大学言語学研究』にご指導ご鞭撻を賜われますようよろしくお願い申し上げます。

編集委員長

『京都大学言語学研究』 第38号

2019年12月31日発行

編集委員長	大谷 青渚			
編集委員長補佐	外賀 葵	小林 浩斗	ジャヤスーリヤ・ドゥリニ	鄭 雅云
	村上 武則	山岡 翔	ワットゥクンプ・テロ	
編集委員	大西 貞剛	キヤット・アダム	定延 利之	千田 俊太郎
	仲尾 周一郎	林 範彦	水野 輝之	宮川 創
	山本 武史	吉田 豊	(五十音順)	
発行者	京都大学大学院文学研究科言語学研究室 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話：(075)753-2827 https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/			
印刷	中西印刷株式会社 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町146			

Kyoto University Linguistic Research

Vol. 38

Articles

OCHIAI Izumi:

Inclusory constructions in Seediq: Reconstruction. 1

KURABE Keita:

Where have all the adjectives gone? The case of Jinghpaw 29

WAKIZAKA Miwako:

A study on the suffix *-tar-* in the Japanese Kohoku dialect
– its animacy co-occurrence restrictions and aspectual behaviors. 49

Reviews

SUZUKI Hiroyuki:

Shao, Mingyuan: *Hexi zoulang binwei Zangyu Dongnahua yanjiu*.
Guangzhou: Zhongshan Daxue Chubanshe, 2018, 10+450pp. 65



2019

Department of Linguistics
Graduate School of Letters
Kyoto University